



家族葬するならば寺 が一番と伝えよう

家族や近親者だけで行う「家族葬」が増えるなか「家族葬をするならば本堂でしよう」と呼びかける住職がいる。理由はお寺こそ家族葬に最適だからである。論より証拠。

七割以上が家族葬増加を実感

「最近、ほとんどが家族葬です。理由は高齢社会。亡き人も親族も高齢化しており、親戚も身近な人しか呼ばない。祖母でも、関係が薄ければ他人と変わらないのでしよう。通夜葬儀よりも、仕事を優先する方がけっこうおられます」「お金のあなしかかわらず、直葬を

選ぶ人が増えている。「横並び」の意識なのか、抵抗感が減ってきたように思う。家族が亡くなっても、近所にも隠しているし、息子や娘がいるのに奥さんだけで旦那を直葬したなんて話もあります」「通夜をせず葬儀だけの「一日葬」が増えました。このあいだも「住職、一日コースでお願いします」なんて言われて、びっくりしたよ。これが広がるのは住職

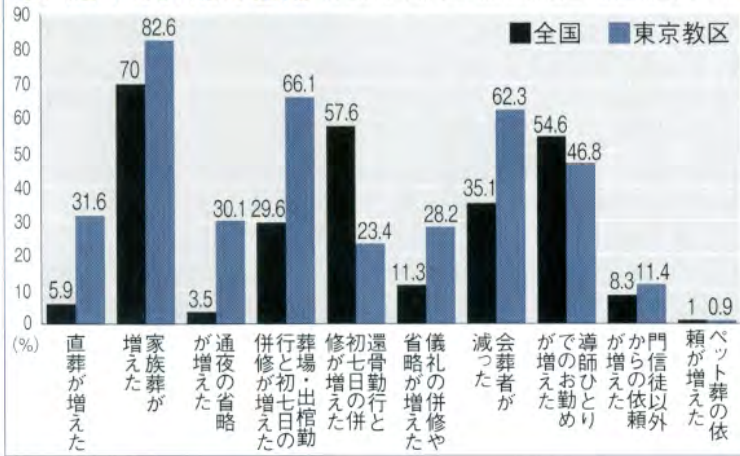
も忙しく、お布施の額が変わらないならと受け入れるお寺もあるからだよ」
「いずれも、都内のお寺から聞いた話だが、とりわけ昨今、地域問わず増えてい

るのが、近親者だけで行う「家族葬」だ。上の表は浄土真宗本願寺派が平成二十七年に行った『第十回宗勢基本調査報告書』の「葬儀の変化」の結果だ。ご覧のとおり「家族葬が増えた」と答えたのは、東京教区では八割、全国でも七割に上る。

藤明聖住職（六十六歳）が出入りの葬儀社と話し合って作った同寺専用の葬儀プランだ。

家族葬ならお寺でやらせよう

表 近年の葬儀の変化（浄土真宗本願寺派「第10回宗勢基本調査報告書」より）

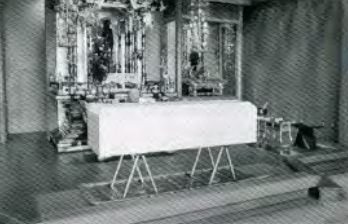


増加の理由は人間関係の希薄化に加え、高齢社会、それに葬儀費を抑えたいという喪主の思いからだろう。この家族葬の横行を、否定的に見るお寺は少なくない。ところが、近年、むしろお寺の方から積極的に、「どうしても家族葬をしたいのならお寺でやろうよ」と呼びかける動きがあるのだ。

家族葬で寺院危機打開策 東京都・真宗大谷派明順寺

東京都台東区の真宗大谷派明順寺では十年ほど前から、門信徒に《お寺で家族葬》と題したパンフレット（次頁の写真）を配布している。齋

カラー写真入りの十四頁建てで「葬儀の流れ」「葬儀費用の詳細」、明順寺の本堂に合わせた三種類の「祭壇料金」、通夜や告別式・葬儀の料理や返礼品などの「人数により変動する費用」、さらには「葬儀見積書」も付され、お寺で家族葬を行う手続きから費用まで一目で分かる。費用は基本料金二十三万九千円（棺・寝台車・遺影写真・骨壺・遺骨用祭壇・白木位牌・ドライアイス・司会進行・受付と焼香用具・看板・手続き代行）に、三種類の祭壇料（二十万円、三十万円、四十万円）、これに通夜や葬儀の料理、返礼品などの費用、火葬費などが加わる。二十名参列の葬儀なら葬儀費だけで七十三万五千五百八十五円を目安としている。「家族葬は基本的に会葬者からの生花が少ないので、さみしく見えないように本堂の幅に合わせた横幅の広い祭壇を設計



本堂内陣に棺が安置される



オリジナルの花祭壇を設置



お勤めをする齋藤明聖住職



お別れの花入れをする遺族



霊柩車にのせて…

いるように感じます。でも祭壇も簡単です、会葬者の

明順寺の家族葬シーン

明順寺オリジナルの家族葬用の祭壇であり、パンフレットだったのである。「檀家はお寺の家族なのだから」と齋藤住職によると、お寺で家族葬を受ける場合は、会葬者は四十名までを基本としているという。しかし実際には二十名がほとんどで、多くても三十名ということだ。実際のプランについては遺族と葬儀社の間で話し合ってもらおう。会場使用料はお布施として十万円ほどを目安としているが、遺族の状況によってその限りでもないそうだ。「喪主が若くて何も分からない時などは、私が葬儀社との間に入ることもあります。費用がない時は、亡きお父上のお友達

に生花をあげてもらいなさい」と提案をしたこともありました」と振り返る。若い門徒には心強いことだっただろう。それでは家族葬の流れを見よう。家族葬を受けると、齋藤住職はまず本堂や客殿を整える。棺が内陣に安置され、祭壇が設けられる。遺族の到着前に齋藤住職がお勤めをする。夕方、遺族が到着すると法名が伝達され、お通夜が始まる。お通夜では勤行のあとに必ず、法話をする。しっかりと遺族に法話ができるのも、お寺の家族葬のよいところだ。「弔問客が大勢来る従来のお通夜では、遺族は対応に精一杯で、法話ができるチャンスがきわめて少なかった。でも、お

寺で家族葬を行う時は途中の退席者もないので落ち着いて話せます」お通夜のあとは客殿で通夜の後席。故人を偲びながら住職と共に食事をするひときは、とても喜ばれるという。宿泊はできないので、遺族はいったん帰宅する。翌日は葬儀。茶毘にふしたあと、お寺に戻って「還骨勤行・初七日忌法要」を行う。勤行後に住職の挨拶があり、参列者は会食をして解散する。葬儀会場と異なり、お寺での家族葬は実質、一日半にわたってつきつきりになる印象だが、負担はないのだろうか。「お迎えして、きちんと出してあげるの



東京・真宗大谷派明順寺が門徒に配布したパンフレット

してもらいました。毎年、ご門徒さんの一割はお寺での家族葬を選ばれますが、とても喜ばれています。私はお寺で家族葬を行うのは、これからのお寺の危機打開策にもなるのではと思っています」齋藤住職はそう力を込める。明順寺はJR上野駅から地下鉄で一駅の下町に建つ。現本堂は平成八年に旧本

堂の老朽化に伴い、新築された。約六十坪の境内に、鉄筋コンクリート造の地上四階、地下一階建て。本堂、客殿、納骨堂、庫裡を併設する機能的な伽藍だ。ただ一つ難点があった。本堂が三階にあることから、会葬者の多い一般葬儀は人数がさばききれず、断らざるを得なかったという。だがある日のこと。「ご門徒さんから娘が自殺しました。家族三人しか出ませんので、お寺でなんとかしてもらえませんか」と言われたのです。すぐに葬儀社に連絡し、お寺に連れてきてもらい、日にちもなかったため、十分なお飾りも整わないなか、お寺でお通夜をすることになったのです。ご家族は意気消沈されて、ご飯ものを通らな

きるんだなど。その頃、だんだんと家族葬が増えてきた時期でもありました。当時はまだお寺では「家族葬なんて」と否定的な声も多かったのですが、門徒さんに、お寺で家族葬ができるよと勧めたら喜んでもらえるかなと思ったのです」だが今もそうだが「家族葬」の定義はけっこう曖昧だ。現場でそれを痛感した。「あるご葬儀の会場で『家族葬にしました』と言われた。確かに喪主を含めて十人しか参列者はいませんでした。ところが花が祭壇の壁一面に飾られているのです。香典もないのに十人でなぜこんなに花が必要なのかと驚いた。また別の葬儀では、非常に立派な祭壇が飾られている葬儀場で、お通夜の参列者は二人だけというのもありました」

人数も限られているので、法事の延長線上で対応できる感じですよ。そういう意味では寺族の協力も得やすいでしょう。むしろ、お寺の家族葬は、危機的状况にある現代のお寺の打開策にもなると思いますが、一つは経済的な面からいえば、お寺を使っていたくという名目で、お寺の維持費としてのお布施に理解をいただきます。やすいのではということ。もう一つが、お寺で家族葬を行うことで、門徒とお寺は家族なのだなど、お互いに感じる機会になることではないでしょうか。お父さんのお葬式をお寺での家族葬で執り行われた門徒の息子さんが、お通夜の法話のあと「住職さん、正直感動しました。こんなにいいお通夜をしてくれてありがと」と言ってくれた時、私もまた自信をいただくことができたのです」